

URGCCマトリクス

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】

学校教育学士プログラム

	URGCC学習教育目標	自律性	社会性	地域・国際性	コミュニケーション・スキル	情報リテラシー	問題解決力	専門性	
		自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	
学士教育プログラム学習教育目標	(1)子ども理解		○		○			◎	
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 教員として子どもへの理解を深めていくためには、子どもとそれを支える人々との関係性を俯瞰しうる視野をもちながら[社会性]、言語・身振り・表情がもたらすコミュニケーション上の含意を理解し活用できるスキルを習得し[コミュニケーション・スキル]、教育心理学や道徳教育などの学問分野を理解・活用していく[専門性]が必要となる。								
	(2)学校教育に関する理解			○			○	◎	
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 学校教育に関する理解を深めていくためには、義務教育の理念・目的及び教育課程の制度を十分に理解し[専門性]、学校と連携した地域社会の役割及び国際社会における学校教育の役割を認識し[地域・国際性]、学校現場での実習経験を重ねることでさまざまな問題への対応力を体得する[問題解決力]が必要となる。								
	(3)教科内容についての理解					○	○	◎	
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 教科内容についての理解を深め、児童・生徒の多種多様な興味・関心に応えるために、各教科の基礎となる専門的な素養[専門性]を身に付ける必要がある。また、子どもの学習上の迷いや悩みの所在・性格を分析してサポートすべき重点事項を指定できる能力[問題解決力]や、各教科の内容や特性を考えながらコミュニケーション技術を活用していくこと[情報リテラシー]ことも必要となる。								
	(4)特別支援教育についての理解		○				○	◎	
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 特別支援教育にとって不可欠な心理学や生理・病理学の基礎的知識を身に付け[専門性]、それら知識を援用しつつ臨床的・実践的な指導・評価プログラムを協同して設計できるようになる[社会性/情報リテラシー]必要があるため									
(5)幅広い教養	○		○	○	○	○			
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 多文化共生の時代の教員として幅広く多面的な教養を身に付けるには、身近な地域への共感・関心とともに国際的な視野を育みながら[地域・国際性]、多様な人々との関わりにより得られる叡智を自らのアイデンティティに結び付ける能力[自律性及びコミュニケーション・スキル]や、様々な情報を収集・分析・交換する力量[情報リテラシー]が必要とされるため									
(6)上記(1)～(5)を基盤とする教育実践力	○	○	○	○	○	○	◎	○	
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 教育実践力を育むには、国際的な教育の動向を意識するとともに沖縄ならではの地域的課題を認識した上で[地域・国際性]、各種分野の知識・素養をもとに[専門性]、主体的に他者と協同して学習し[自律性及び社会性]、自らの得た情報を他者の情報と交流させてグレードアップさせながら発表や質疑応答を的確にこなし[情報リテラシー]、学校の中で発生するであろう諸課題の焦点を特定して有効な解決策を構想・実行できるようになる[問題解決力]必要があるため									
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									